

令和4年第12回真庭市教育委員会会議録

会議種類	定例会	
開催年月日	令和4年11月25日(金)	
開会及び閉会時刻	開会時刻	09:30
	閉会時刻	10:21
場所	真庭市本庁舎3階 教育委員室	
会議録署名者	教育長 三ツ 宗宏	
	署名委員 井口 利美	
会議録作成者	教育総務課 上級主事 美甘 仁美	

1 出席委員

職 名	氏 名	備 考
教 育 長	三 ッ 宗 宏	
教育長職務代理者	井 口 利 美	
委 員	常 本 直 史	
委 員	徳 山 周 一	
委 員	高 谷 絵里香	

2 出席した者

職 名	氏 名	備 考
教 育 次 長	安 藤 紀 子	
教育総務課長	浅 野 晃 彦	
学校給食推進室長	丸 山 昭 良	
学校教育課長	秋 元 紀 幸	
生涯学習課課長	谷 岡 理 江	
図書館振興室長	黒 田 裕 子	
教育総務課上級主事	美 甘 仁 美	

3 傍聴人

な し

4 議事日程

日程	案 件	結 果
	開 会	
第 1	教育長あいさつ	三ツ教育長
第 2	署名委員の指名について	井口委員
第 3	教育長諸報告	安藤教育次長
第 4	付議事件	
	議案第 37 号 令和 3 年度教育に関する事務の管理及び執行状況の 点検及び評価報告書について	継続審議
第 5	その他	
第 6	閉 会	

5 議事の概要

(09時30分 開会)

○三ツ教育長

これから第12回教育委員会会議を開催いたします。以下議事日程に従い進めてまいります。

教育委員皆さんには、今月は本当に度々ご足労頂きありがとうございます。割と天気の良い日が多かったので、有難いなと思っているところです。早いもので、もう11月も終わろうとしています。新型コロナウイルス感染症の関係で、みんなが揃うということが難しい学校もありました。しかし、それでも多くの学校で通常の教育活動や行事を進めているところでもあります。ただ感染症対策に関しては、ずっと気を使う状態が続いているということで、疲弊しなければいいなということを思っているところです。

この間、学校の方へ度々お邪魔しましたが、「ありがたいな」と思うことがたくさんありました。ある学校では学習発表会で、PTAの方々や卒業生と一緒にあって劇を披露されました。社会教育団体としてのPTAが、「楽しいことや面白いことを持ち寄って一緒に何かを実現する姿」というのは、とても心強く感じました。また、ある学校では外部の方を招いて、STEAM教育*を実践した授業を行っていました。「既存を疑うこと」「疑問を持つこと」「疑問を持ったら調べること」「調べたら対話をして考えること」。そういったことの大切さを学ぶような機会がありました。そして、またある学校では学校の中に歴代の写真を展示して地域の方々に開放し、卒業生が度々訪れて写真を見ることができると、そこから色々な対話が生まれる…というような取り組みをされていました。「地域に開かれた学校」ということが言われ続けてきましたが、学校が安全に配慮した上で、気軽に人々が寄れる環境になりつつあるということ、心強く感じています。これが、点ではなく、線になり面になって、広がっていけばいいなと思っているところです。

もう一点は、授業を見させて頂いた中で、感じたことです。令和答申という

のが出されていますが、「子どもが主語というのは、一体どういうことなのか」ということを、もう一度きちんと考え直さなければならないと感じています。子どもが主語というのは、基本的には、「主体的な学習者をどう育てていくのか。どう応援していくのか。」ということだと思います。知識を伝達するということも大事ですが、「子ども達が自ら学びに向かう」ためには、どんな授業を作っていけばいいのかということ、もう一度考えていかなければいけないと感じているところでもあります。

本日も昨年度の点検評価等についてもご議論いただくとと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

続いて、日程第2 署名委員の指名ですが、今日は井口委員さんお願いいたします。

*スチーム教育…STEAM 教育 (Science 科学,Technology 技術,Engineering 工学,Art 芸術,Mathematics 数学 の頭文字) を組み合わせた教育概念。これらの5つの分野の学習を通して、子ども達を今後のIT 社会で、自ら道を切り開いていく人材に育てていくための教育方針。

○井口委員

はい。

○三ツ教育長

続いて日程第3 教育長諸報告を教育次長よりさせていただきます。

○安藤教育次長

(資料により説明)

・令和5年 第1回教育委員会…1月25日(水) 9:30

※26日図書館協議会

○三ツ教育長

ただいま報告をさせていただきました。委員の皆様から、何かご質問・ご意

見等ありますでしょうか。それでは、続いて日程第4付議事件です。

議案第37号 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について、お願いします。

○浅野教育総務課長

(資料により説明)

○三ツ教育長

ただいま説明がありました。一番最後のまとめがまだ付加されていないということで、本日ご意見頂いて継続審議とし、後日採決を頂く形になろうかと思えます。委員の皆さんからご質問等ありますか。

○徳山委員

コロナの影響で色々な事業に影響があったのではないかと思いましたが、大体の事業についてよくできているなと感じました。また、学識経験者の方もよく見てくださっていると思えました。そして、感想になりますが、いくつかお話をさせてください。

P61のご意見で、学び直しの事業について書かれていました。今年も生涯学習課主催の学び直しに関する事業が公民館で行われたので、私も関わらせて頂いたのですが、参加された方も指導された方もとても熱心で、どちらも満足感のある事業だったというふうに思っています。ただ、対象者と内容がここに書かれてるようなものでなく、少し学び直しとは違っていたので、(来年度の実施について検討した時に)ここに書かれているような学び直しにしてはどうかと意見が出ました。しかし、検討する上で、いくつかの課題が出てきました。一つは、「学び直し」についての必要感を持っている方の実態が把握できないということ、そしてもう一つは、把握できたとしても、そういう方が自ら参加しようとするかどうかということです。この二つが課題として挙がりました。その辺をクリアしていけたら、ここに書かれてるような学び直しの事業がやって

いけるのではないかと思います。

それから、学力向上についてです。これは色々な学校に行かせて頂いて感じたことです。どの学校も本当によく頑張っておられて、研究も進んできているなと感じました。しかし、まだまだ必要な面もあるなというふうに思っています。学力化の変革ということを課題に挙げておられる校長先生もおられました。本当にここが大事だなと思います。P67のご意見に、「各校が研究会に講師を招聘して…これは継続が必要。」とありました。私もそう思います。確かに各校の研究会で色々と研究していくというのもいいと思います。しかしこの場合、その学校にあった講師の招聘ということになりますので、そうではなく、市教委の方針を共有するために、市教委主催で講師を選定して夏休み等に数回の研修会をするというのもいいのかなと思いました。そしてその時に、各校1人の参加だと学校へ帰ってから同じ土俵に乗れないので、各校管理職と研究主任というやり方もあるでしょうし、リモートで参加できる学校は全員参加する等して、できるだけ多くの方が同じ土俵で学力・授業力について考える機会ができれば、研究が進むのではないかというようなことも思いました。ただ、事業を増やすと大変なので、やらなくてもいいようなことは省いていくことも考えながら、そういうことを加えていくのはどうかなと思いました。

それからICTの活用についてですが、これも本当によく皆さん使われてるなということを感じました。今回私たちが学校訪問等で見たのは、学習面での活用がほとんどでしたが、校務でも活用ということを書かれていたと思いますので、出席簿・保健関係・成績処理・会計処理等が進むと、とても助かることだなと思います。併せて、私が現役の頃から課題になっていた「教育課程の作成」はどのようになったのでしょうか。こういった辺も進めばいいなと思っています。先生方のニーズに合わせて、校務の情報化等もさらに活用できるよう現場の意見を聞きながら進めていくことが大切だとこれを読みながら思いました。感想になりましたが、以上です。

○三ツ教育長

ありがとうございました。事務局から何かありますか。

○浅野教育総務課長

こちらの議案ですが、なるべく早い内にまとめをつけた上で、もう一度皆様方に審査・採決頂きたいというふうに考えております。また、本日、日程調整させて頂きたいと思っております。よろしく願いいたします。以上です。

○秋元学校教育課長

ご指摘頂いた点について、1点目、各校の研究発表会についてですが、現在、各校の判断で研究を進めていただいております。「その学校にあった講師に留まってしまっているのではないか。そこが少し残念なところである。」というようなお話もいただきまして、さらに提案として、市教委主催で夏季休業中等を通じて、全校できる限りの教職員(リモートも含めて)参加の研修をしてみたらどうかということで、貴重なご意見をありがとうございます。確かに、そういった機会を持てたら、共通理解の場という形では非常に大きな意義を持ってくるだろうなと思っています。現時点では、全校対象の研修ですと、一番大きなものは市の教育センター講演会ですが、なかなか「学力に特化」したという形のもの最近では実施できておりません。昨年度ですと、「非認知能力と認知能力」ということで、『ケーキの切れない非行少年たち』を書かれた先生に講演をいただいたということがあります。そういうところで、もっと学力に向けた講師の先生をお呼びするという事も考えられるのかなと思っていますが、ただ、新たに研修会を設けるとなると、なかなか難しい状況です。今、学校も様々な形で研修をしていますので、今実施しているものの中で実施したり、それから今実施しているものを無くしてこちらに変えていったりということができないか、担当を含めて研修を深めてまいりたいと思います。

もう一点、ICT環境です。教育課程の作成ということですが、現行の校務支援システムでも教育課程の編成に活用していくことは出来ます。しかし、これが進んでいないということは、やはり使い勝手の部分で現場のニーズにマッチ

していないところもあるのかなと思っています。ただ現在、1人1台端末が2年前から入って、大きく学校の中のICT環境というものが変わってきている状況です。学校に配備しているプロジェクターも耐用年数がかなり限界を迎え、今後はまたプロジェクターにするのか、大型モニターの方が解像度がいいということでそちらに変更するのか、どちらを使っていくのかという問題も出てきています。また、校務支援システムをどうしていくのかも考える必要があります。県や国で統一したものを導入してはどうかというような話も上がってはいると聞きますが、どのタイミングでどう入れていくのかということも、学校や教室内のICT環境、それから学校全体でのICT環境を今あるもののどこを引き継いでどこを新しくしていくのか、ということをしっかり考えて決定していかなければいけない時期に差し掛かっていると感じています。

今年度、そして、特に来年度を中心にその方向性を固めていきたいと思っています。ありがとうございます。以上です。

○三ツ教育長

はい、今事務局より説明がありました。別件でもかまいませんが、委員の皆さんからご質問等ありますか。

○谷岡生涯学習課長

すみません、徳山委員の質問の中で、61ページの学び直しの項目に対するご意見があったと思いますので、一言お答えさせていただきます。生涯学習課では今年度、学び直しの講座を開設しましたが、実際参加されたのは、義務教育課程を昔受けられなかった方というよりは、自らの学びがしたいというような方が来られました。もちろん昔、義務教育課程が受けられなかったので、学び直したいというような方も当然、視野に入れておりますが、生涯学習課としてできることは、そういった場を設定することだと思っています。ですので、実際そういう方がいらっしゃるかという把握は、生涯学習課の範疇ではできませんので、そういった部分は福祉部局と連携をとりながら、実際にそういう方

の背中を押していただくのは福祉部局の民生委員さんや保健師さんをお願いする方がいいと思っています。生涯学習課としてはそういう場を設けて、いつでも来て頂けるようにしていくというようなところで連携を図りながら活動を継続していくのがいいのかなと思っています。以上です。

○三ツ教育長

今の学び直しについては、課長からあった通りだと思います。今の時代、学ぼうと思ったらいくらでも方法がありますし、ネットも含め至る所に情報があります。そういうものも有効に活用したり紹介したりすることも大事なのかなと思っています。それから学力向上の研修会ですが、課長から先ほどあった通りで、もう研修会をどんどん増やしていくということはなかなか難しくなってきました。現在、学力向上担当者会というのをやっていますが、同じスタンスでずっと継続されているので、結構充実しています。こういったものを夏休み開催をして、今も参加者を絞ってはいませんが、よりオープンにして Web でも参加できるような形を考えると、そういう形をとっていくのが一番有効なのかなと思っています。それから、研究会もたくさんやっていますが、参加者の顔ぶれを見ると、大概校長先生、教頭先生ばかりという現状があるので、そこをどう変えていくのか、学校から先生方が学びに出ていきやすい環境をどのように作っていくのか、これも大きな課題だと思っています。それから、ICT環境についてはおっしゃる通りで、これも学校教育課は課題意識を持っていますが、Google ワークスペースやミライム、そして校務支援システム等を使っており、一元化できておりません。これをやはり一元化していかないと、「全部 CSV に落として変換して流し込む」みたいなことをしないといけないので、大変手間がかかります。ですから、過渡期だと思っています。本当は国県で一元化していただけるのが、県費負担教職員なんて一番いいと思いますが、そこは県とも調整しながら考えていかなければいけないかなと思っています。はい。委員の皆さんから他に何かありますでしょうか。

○井口委員

昨日資料が届いていたのですが、正直言うと内容をまだ深く読めておらず、わからない部分もあるので内容的なことは言えませんが、令和3年度分について、もう今11月の終わりですが、これを作ることが仕事みたいになっているのではないかという気がしてしょうがないです。計画があって、CAPDサイクルで評価して、2名の方にも詳しく書いていただいて、せっかくこういういいものがあるのだけれども、やっぱり時期がずれずれになってるということを根本的に考えて、やり方そのものをちょっと工夫しなければいけないのではないのかなと思いました。もう12月が来て、来年度のことを考えるタイミングで、その前々年のことをやっているという感じがして不思議な気がしました。

○浅野教育総務課長

すみません。おっしゃる通りでございます。例年は8月の委員会にはかけさせていただいているのですが、現在とても人手が足りていない状態で大きな事業が次々と出来ている状況だったため、作成に時間がかかってしまいました。

それと併せて第2次教育振興基本計画も改定され、そこに掲載している重点政策も、この点検評価と次回からリンクをさせております。教育振興基本計画は今年度から毎年委員会を開催をして、計画の進捗自体をそこで策定委員さんに見ていただくということも改革として行っていく予定です。このため、令和3年度の重点施策については基本となる計画も変わったということで、その策定段階で昨年度、しっかり議論ができたのかなというふうには考えております。ただ委員さんがおっしゃるように、なるべく早めに市民の方にも公表できるようにやっていきたいと考えております。ありがとうございます。

○三ツ教育長

ありがとうございます。とても大事なことだと思います。今後、出来る工夫や改善はしていきたいと思います。また、新しい計画になりましたから、現在はそれに基づいて事業遂行していて、前5年の計画を総括として一応こういっ

た形で残していこうということでもあります。もっと言えば、他の自治体では、もう本当に簡素なものにして毎年更新ということに取り組まれている自治体もあります。その辺も含めて考えなければいけないのかなと思います。

他にありましたら、委員の皆さんからご意見をお願いします。

○常本委員

全体を見て5年間が終わったので、令和3年の評価が入った後、5年間の全体的な評価がこの中に入っていくのですか。

○浅野教育総務課長

まとめにつきましては、一応5年間の総括的なものを簡単ですけれども、入れていくつもりです。そういう意味で、評価の推移・KPIの推移等を入れていきたいと思っております。

○常本委員

今年で5年間が終わったので、令和3年はこうだったという総括をして、それから全体の5年間の総括をしておく必要があるのかなというふうに感じました。それから井口委員が言われたように、もう令和4年度が終わりかかっている時に令和3年ということで、これが何とか早くなればいいのになと思いました。私は、市教委が計画を立ててずっと動き続ける姿勢がとても大事なことだと思います。一番よくないのが、去年やったことを同じようにすればいいというふうになることです。去年の反省をもとに今年はどうやってみようかと常に考えて動いていることが大事なことだろうと思います。それから、これをずっと読んでいると人材育成という項目がいくつかありますが、人を育てるとするのは、本当に一朝一夕にはできないことだとつくづく感じました。どの分野でも人材育成という課題があり、どう刺激をすれば育っていくのか。学校現場で言うとならばやるほど受身になってしまっていて、「またこれをするのか」「またこれやるのか」となってしまうこともあるかもしれません。「自ら学ぼうとする子ども

もを育てる」ということをするのであれば、教員や地域の方も自ら学ぼうという姿が大事だと思います。地域の方は教育にとっても関心がありますし、声がかかれば支援を惜しまないというのは、学校の話聞いた中ですごく感じました。だからこそ、現場にいる教員の自己研鑽が大切で、「自分たちが勉強しないと子どもは勉強しない」という意識をみんなが持つことが必要だと思います。そして、それを常に我々は言い続けていくことが必要なのかなと感じました。ここに、家庭教育の支援にファシリテーターという言葉がありますが、非常に力がないとできないことなので、やはり教員もそういうファシリテーター力のようなものを身につけることが大事だなと、つくづく思いました。以上です。

○高谷委員

少し話を戻してしまうような形になるのですが、私も井口委員がおっしゃったように、このボリュームが本当にすごいなと思いました。他の自治体ではもっと簡素化しているというお話も伺って、評価に労力をかけるのではなく、もっとシンプルにしてはどうかと思いました。評価というのは振り返りという意味では大事だと思いますが、たとえそれがDであろうとAであろうと、大事なものはその計画を実行していくことだと思います。一番大事なことは基本計画の5本の柱（今は3本の柱ですが）に日々立ち替えられるかどうかというところじゃないかなというふうに思いました。ですので、今後はもうちょっとシンプルにしていく方向も考えていった方がいいのかなと思います。以上です。

○徳山委員

本当に今言われたように絞っていくというのが必要かなと思いました。そして、浅野課長が言われたように、途中結果が見える形が大事だと思います。もう一つ、各課でそれを共有していくということも大事なのではないかと思いますので、できるようであればそれを進めていただけたらと思います。以上です。

○三ツ教育長

はい、その他ありませんでしょうか。本当に大事なことをご指摘いただいているのではないかと思います。何のためにやっているのか、何が大事なのかということに常に立ち戻らなければいけないということだと思います。その大事なことを遂行するために本当に必要なことに絞り込む（事務的にも）ということも考えながらやっていかなければいけないなと改めて思っています。それから、常本委員がおっしゃっていたファシリテートマネジメントというのは、これからの希望だと思いますので、教員に限らず、市民がそれをやれるようにどうやっていくのか、そういう人材育成が大事だと思います。そして、この人材育成の観点から言うと、「お客さん」や「無責任」を拡大再生産しないようにしなければなりません。「お客さん」にしないためには、「これがやりたい。あれがやりたい」というのを持ち寄る文化にしなければならないと思います。そこに関わることで責任も生ずるし、喜びも生まれるということ、学校の子どもたちに対しても市民に対してもどうやっていくのかが要になると思います。行政は仕組みを整えるだけで良いみたいなのところがあるのですが、もちろんそれも大事ですけれども、その後の繋がりをどうやっていくのかということ、我々は考えていかなければいけないと、改めてご指摘いただいたように思います。

その他ありませんか。よろしいですか。それではまた、まとめをつけた形で採決いただくということで継続審議という取り扱いにさせていただきますが、よろしいでしょうか。

○全員

はい。

○三ツ教育長

ありがとうございます。それでは、付議事件は以上です。続いて日程第5その他です。委員の皆さんからなにかありますか。事務局より、他になにかありますか。

それでは、以上で教育委員会会議を終了いたします。

(10時21分 閉会)